



社会言語科学会ニューズレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 6 号

2000年6月15日 発行：社会言語科学会事務局
〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室
URL <http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

《巻頭言》

第二公用語論をめぐって

社会言語科学会・理事
真田 信治

4月下旬、韓国忠清南道の天安市にある檀国大学校を訪れた。「韓国日本文化学会」での2000年春季国際学術発表会に参加するためである。私は招請講演の依頼を受けて、日本標準語の時代史に関する話をしたのであるが、そこで出た質問の一つに、例の小渕前首相の私的懇談会「二十一世紀日本の構想」が1月にまとめた報告書の中で「長期的には英語を第二公用語とすることも視野に入ってくる」と提言したことについてのものがあった。この提言をどう考えるかということである。

私は、そもそも第一公用語も定めていない国が第二公用語を言うこと自体おかしい、と述べた。しかし、それ以上に、「公用語」という概念をめぐる基本的な誤解がそこにあるとも述べた。公用語 (official language) とは、一般に、国内に複数の民族や言語共同体 (コミュニティ) が存在するとき、その住民の権利保護や行政の便益向上のために官公庁においてその使用を法律で定めた言語のことである。したがって、日本政府がアイヌ語や韓国語を公用語と認定し使用するというのなら、話は分かる。このように公用語とはあくまで国内のコミュニケーショ

ンにかかわる事項なのである。それを英語にしようというのでは、住民にとって不便不利益、まさにナンセンスというほかない。対米従属をさらに強化したいというなら話は別であるが。

講演終了後の懇親会の場で改めてこのことが話題となった。韓国ではこの提言が発表された直後、マスメディアが大々的に報道した由で、教育界に大きなインパクトを与えたのだと言う。英語教育者は、英語が公用語になれば、日本語ができなくても日本で英語で暮せる、便利なことだと喜び、日本語教育者はその勢いに押されて、さらに肩身が狭くなっているとのことであった。英語公用語論をあまりにも日本の側からしか見ていなかったことを反省させられた瞬間でもあった。

この英語公用語論はもちろん日本国内でのコミュニケーションにかかわるものではなく、日本人と外国人との国際コミュニケーションにかかわるものである。研究上の内容、方法論ではけっしてひけをとらない日本人が、国際学会などで英語力不足のために大いなる不利益を被っている。そのための手当てを真剣に考えるべき時期にきている。この論は、日本人の一人一人が国際舞台で英語を駆使できるような教育、ともかくに現在の英語教育の改善が必要だとする

[次頁へ続く]

●第6回研究大会ワークショップ企画募集●締め切り: 6月30日(金) ...p.2

夏のワークショップ参加者募集 ...p.3 講習会報告 ...p.4 『社会言語科学』訂正とお詫び ...p.4
理事・監事推薦管理委員会から報告...p.5 事務局からお願い ...p.5

[巻頭言続き]

この英語公用語論はもちろん日本国内でのコミュニケーションにかかわるものではなく、日本人と外国人との国際コミュニケーションにかかわるものである。研究上の内容、方法論ではけっしてひけをとらない日本人が、国際学会などで英語力不足のために大いなる不利益を被っている。そのための手当てを真剣に考えるべき時期にきている。この論は、日本人の一人一人が国際舞台で英語を駆使できるような教育、ともかくに現在の英語教育の改善が必要だとする主張であることを私は十分に理解している。し

かし、そのことと公用語の問題とはまったく関係がないのである。公用語というのなら、日本人のために、日本語をこそ国際公用語にさせる努力が必要なのではないか。

提言を受けて、小渕前首相は施政方針演説において、「教育立国」をめざすとし、目標として「二十一世紀を担う人々はすべて、…国際共通語である英語で意思疎通ができ、インターネットを通じて国際社会の中に自在に入っていけるようにすること」と訴えたが、そこでは第二公用語という表現が微妙に回避されていたのが印象的であった。(さなだ しんじ)

締め切り! 第6回研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ

研究大会委員会

研究大会では、これまで研究発表の他に大会企画として招待講演、シンポジウムなどを開催してきました。研究大会における会員間の交流を促進し、大会を一層実りあるものとするために、次回の研究大会では、新しい試みとして会員の提案に基づくワークショップの開催を計画しています。特定のテーマを設定して集中的に討論を行い、研究課題の整理・発掘、新たな研究方向の提示、異分野間の認識の擦り合わせを目標とします。

上記趣旨により、ワークショップの企画を広く会員の皆様から募集いたします。企画提案者は以下の項目を添えて、電子メールにて下記までお申し込みください。なお、電子メールを原則としますが、郵送、faxでも受け付けます。その場合、以下の提案項目をなるべくA4用紙1枚に収めるようご記載ください。

[提案項目]

- (1) ワークショップ題目
- (2) 企画責任者の氏名、所属、連絡先
- (3) 他のワークショップ参加予定者の氏名、所属
- (4) ワークショップの企画概要
(1000字以内)

[送付先] jass-workshop@mic.atr.co.jp

郵送、faxの場合

〒192-0364 八王子市南大沢 5-6-3-602

社会言語科学会研究大会委員会

事務担当： 東 直子

電話番号： 0426-75-2036 (fax 兼用)

[締め切り] 2000年6月30日(金)

- ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に1企画あたり3時間程度での開催を予定しています。ワークショップ並列開催の可能性はありますが、研究発表とは重ならないよう設定する予定です。
- 会場準備の都合上、申し込み多数の場合には、すべての開催希望に添えない場合もあります。ご了承ください。
- 第6回大会は2000年9月9日(土)、10日(日)に中京大学八事校舎において開催されます。詳細は <http://www01.u-page.sonet.ne.jp/ra2/jnagase/taikai.htm> をご覧ください。

夏のワークショップ「統計学の基礎と言語調査」 ご案内と参加者募集

日時： 2000年9月4日(月)～7日(木)
場所： ホテル「ウィンザー」(長野県軽井沢町)

社会言語科学会では、この夏、3泊4日の日程で、以下の内容のワークショップを開催します。
会員、非会員それぞれ多数のかたのご参加をお待ちします。どうぞふるってご参加ください。

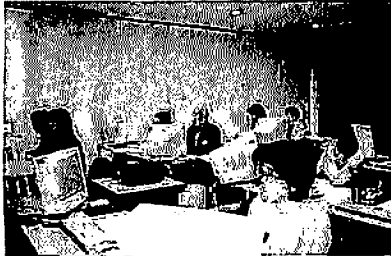
- 内容** 言語の社会調査に必要な統計学の基礎的な知識と、統計的知識を使った言語調査に使う際の調査表の作成と実施のしかた、また、調査結果の解釈のしかたを学びます。そして、少し高度な統計的手法としての多変量解析の解説と、それを使った言語事象の因果関係の解析結果を、実例を使って解説します。
※受講者は統計的知識を必要としません。
※今回のワークショップでは、会場・設備の都合により、パソコンを使った実習は行いません。
- 講師** 永瀬 治郎(専修大学文学部教授)
半沢 康(福島大学教育学部助教授)
田中ゆかり(日本大学文理学部助教授)
- 日時** 2000年9月4日(月) 昼 ～ 9月7日(木) 昼 3泊4日
- 会場** 長野県軽井沢町長倉 861-24 ホテル「ウィンザー」 現地集合・現地解散
電話：0267-46-3063 Fax：0267-46-3097
- 交通** しなの鉄道「中軽井沢」駅よりタクシー5分(車での送迎あり)
○東京駅より：JR 長野(北陸)新幹線で「軽井沢」駅へ(約80～110分)。しなの鉄道に乗り換える(約5分)。
- 参加費用** 会員：一般 40,000円、学生 35,000円 非会員：一般 45,000円、学生 38,000円
(3泊宿泊費・9食食費込み)
- 定員** 50名(先着順に受け付けます。お早めにお申し込みください。)
- 申込方法** 以下の事項を記載した電子メールを下記のアドレスに送付してください。なお、電子メールを原則としますが、郵便、Faxでも受け付けます。
(1) 氏名、(2) 住所(郵便番号も記載してください)、(3) 連絡先電話番号/fax番号
(4) E-mailアドレス(利用していない場合は不要)、(5) 所属、(6) 会員/非会員の別
※郵便、Faxの場合は、「お申し込みの正確な日時」を必ず付記してください(電子メールの場合は不要)。なお、郵便の場合は、封筒に付記してください。
- 申込先** 社会言語科学会事業委員会 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp
郵送の場合 〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所気付
Faxの場合 Fax 03-3906-3530 (所内共用)
※「社会言語科学会 夏のワークショップ 参加申し込み」と必ず明記してください。

○参加の可否、参加費用の納入方法等については、申し込みをなさった方に個別に連絡します。

○ワークショップについてのお問い合わせは、上記へお願いします。

記録 2000春の講習会

社会言語科学会では、3月11日、12日、初めての試みとして、1日完結型の日帰り講習会を開催しました。「社会調査法—データ収集法と統計的分析法—」というテーマで行われたこの講習会には、受け付け開始から短時日のうちに、各日14名の定員に対して会員・非会員の皆さんから非常に多くの申し込みがあり、関心の高さがうかがえました。



講習会は、SPSS 本社（東京都渋谷区）のセミナールームを借りて行われ、質問票の作成のしかたやサンプリング法などについての講義の後、実際の調査データを利用して、SPSS を使った分析と検定について実習を行いました。

〈参加者へのアンケート結果から〉

○企画内容に満足したか？ (回答 25)

- 満足: 10
- どちらかと言えば満足: 13
- どちらとも言えない: 1
- どちらかと言えば不満: 1

(期待していたより初歩的)

○内容としては難しかったか？ (回答 25)

- 難しかった: 0
- どちらかと言えば難しかった: 3
- どちらとも言えない: 5
- どちらかと言えば難しくなかった: 4
- 難しくなかった: 13

○1日完結型の講習会は適当だったか？ (回答 25)

- 適当: 11
- 最適ではないがまずは適当: 12
- どちらとも言えない: 1

最悪ではないが不適当な面がある: 1 (短すぎる)
適当ではない: 0

○費用（会員 10,000 円，非会員 12,000 円）は高いか？ (回答 25)

- 高いと感じた: 7
- これくらいなら適当: 17
- これくらいなら適当・安いと感じた: 1

○今後の講習会の企画についての希望・意見

- ・同様のテーマで、レベル別、用途別の講習会を
- ・さらに高度な SPSS 講習を
- ・実際にソフトを動かせる今回の形式がよい
- ・1日完結では時間が足りない。2,3日のコースを
- ・データ解析方法についてのワークショップを
- ・多様なテーマでの開催を
- ・東京以外での開催を

訂正とお詫び

学会誌『社会言語科学』の訂正

『社会言語科学』Vol. 2, No. 2 に掲載した研究論文の中に誤植がありました。以下のとおり、訂正するとともに、著者および関係各位にお詫び申し上げます。

社会言語科学会学会誌編集委員会

p. 50 《図 2-1》及び《図 2-2》の凡例

<input type="checkbox"/>	第一人称のみ
<input checked="" type="checkbox"/>	第一人称と併用
<input checked="" type="checkbox"/>	お父さん・お母さん／爸爸・妈妈

→

正

<input type="checkbox"/>	第一人称のみ
<input checked="" type="checkbox"/>	第一人称と併用
<input checked="" type="checkbox"/>	お父さん・お母さん／爸爸・妈妈

→

社会言語科学会の理事および監事候補者推薦管理委員会からの報告

社会言語科学会会員各位

2000年6月12日

役員の選任に関する細則、および会員による理事および監事候補者推薦の手続きに関する細則に基づき、以下の日程で新理事・新監事の選任を行いました。

1999年12月22日 候補者推薦公告

2000年2月20日 推薦締切(当日消印有効)

開封は下記の理事および監事候補者推薦管理委員会(以下、管理委員会という)において行われました。

日時 2000年2月23日 9:00~10:30

場所 専修大学神田校舎8C会議室

出席者 荻野綱男, 尾崎喜光, 真田信治,

日比谷潤子

推薦委員会は同日11:00から開催された社会言語科学会理事会に結果を提出し、理事会は会員による推薦を最大限に尊重しつつ、専攻分野、居住地域他、多様な要因を考慮して以下の新理事(4名)・新監事(1名)を選任しました。

新理事 片桐恭弘, 西原鈴子, 橋田浩一,
ダニエル・ロング (50音順)

新監事 荻野綱男

新理事・新監事の任期は2000年8月1日から3年となります。

なお、以下の理事・監事は重任となります。

理事 井出祥子, 岡 隆, 杉戸清樹,
永瀬治郎, 橋元良明 (50音順)

監事 井上史雄

社会言語科学会理事および監事候補者

推薦管理委員会委員長

日比谷 潤子

事務局から

2000年度年会費納入のお願い

2000年度年会費をまだ納入していない方はできるだけ早く納入してください。金額は次のとおりです。

一般会員 7,000円 学生会員 5,000円 団体会員 10,000円

* ODA対象国在住の会員の会費は当分の間半額とします。

国内会員 郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名: 社会言語科学会 番号: 00210-2-87060

* 通信欄に会員の種類と2000年度年会費と記入してください。

海外会員 社会言語科学会の銀行口座に振り込みをお願いします。

銀行名: 東京三菱銀行(Tokyo-Mitsubishi Bank) 返子出張所(Zushi Branch 321)

口座名: 社会言語科学会(Shakai Gengo Kagakkai)

銀行口座番号: 普通 0388545

* 現地貨幣と円の交換レートは振り込み当日のレートでお願いします。

* 小切手や現金では受け付けていませんのでご注意ください。

○会員の皆さんへお願い

年会費が未納ですと、学会誌「社会言語科学」やニューズレターの送付を受けることができませんので、年会費は早めに納入してください。

皆さんの個人情報に変更があった場合には、すみやかに事務局までご連絡をお願いします。

○学生会員の皆さんへお願い

学生会員の方はご自分が学生であることを証明する当該年度の学生証のコピーを郵送か fax で事務局まで送っていただくことになっていますので、年会費の納入と学生証のコピーの送付をお願いします。

学校法人江副学園 私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は 1975 年に設立された新宿日本語学校が、1999 年 12 月に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人江副学園はカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称・CLC日本語学校）を開設しています。私達は、学校法人として若い研究者を応援することも目的の一つと考えています。

理事長・江副隆秀

東京都知事認可 新宿日本語学校 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

03(5273)0044（日本語教師養成講座併設）

学校法人江副学園 CLC日本語学校 東京都新宿区西早稲田 3-26-13

03(5273)0753（月刊SNG発行）

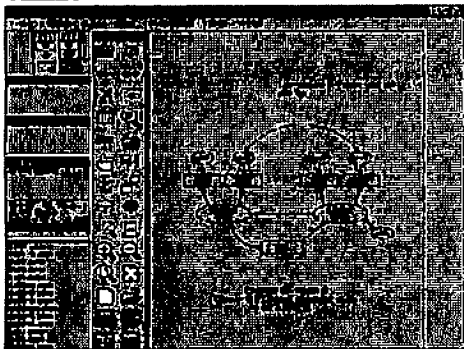
Amos だけが発見できる情報を、モデルとして構築します

SPSS 構造方程式モデリングツール ベストセラー

大好評出荷中!!

AMOS 4.0 (日本語対応版)

～ 日本語表示可能、パワフルで使いやすい構造方程式モデリングツール ～



Amos を使えば、構造方程式モデリング(SEM)／共分散構造分析を実行する過程において費やす労力と時間を節約できます。Amos を使えば、データ内の各変数間の関係を明確にするためのモデルを素早く作成します。

これほど素早く、容易に構造モデルを作成する機能をもちあわせたシステムは他にはありません。

その上、Amos は精度の高い推定をおこないます。新しい方針を導入、行動進路の選択、既存のプログラムがある規定に沿ったものかを確認する場合、Amos は理想的なソフトウェアです。

- ・ Amos 4.0 は、変数名や図表のキャプションを日本語で設定可能！
- ・ グラフィックインターフェイスがますますパワーアップ。マウス操作のみで簡単にパス図を作成。
- ・ クリックするだけで異なったモデルのダイアグラム(図)を交互に表示。
- ・ 母集団の同時分析や欠損値があるデータの分析も迅速、かつ正確に実行。

・ SPSS データファイルは勿論、様々なファイル形式をサポートします。

dBASE3,4,5/MS Excel3,4,5,8/Lotus Wk1,Wk3,Wk4/MS Access/FoxPro2.0,2.5,2.6/SPSS7.5,8.0,9.0,10.0/テキストのファイルに対応

SPSS

エス・ピー・エス・エス株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F

Tel:03-5466-5511(代) Fax:03-5466-5621 e-mail:sales@spss.co.jp

URL <http://www.spss.co.jp>

Amos4.0 ホームページ >>> <http://www.spss.co.jp/product/amos40.htm>